准校長から１月号

～　心で見る　～

北風が肌を刺すように吹き、芯から寒さを感じる季節になりました。１２月は暖冬でしたが１月の半ばから寒気団が日本列島を覆うようになり、本格的な冬らしさを感じています。定時制の場合には授業が６時５分から始まるので、少し暗くなってから登下校のあいさつをしているのですが、立っているだけなので、相当な寒さ対策をしなければなりません。最近は優れた肌着があるので助かっていますが、それほどの防寒具を着ていない元気な生徒たちもいます。若いからエネルギーはあるのだなぁと感心することがしばしばです。

この時期に今年度２回目の授業見学をする機会がありました。この学び舎で頑張っている生徒たちの様子を見ることができました。特に、３・４年生では卒業前なので、先生の説明を聞き、黒板の字を写したり、プリントに向かって一生懸命に筆記用具を動かしていました。そして月末は最後の学年末考査もありました。こうした学校での勉強はもう最後かも知れませんが、卒業してからも学ぶことの連続、そして今頑張った経験が将来に必ず生きてくる、と伝えています。

また１・２年生の体育ではこの時期ならではの「持久走」がありました。とても寒かったのですが、見学生も少なく生徒たちがグランドを走っていました。速い生徒は、校舎の工事のために狭く走りにくくなったトラックを２㌔で９分を切るペースで走っていました。走る前には「嫌だなぁ」とか言っていたのが嘘のように、自分の力を出し走りきっていました。すごく感心をしました。本校の生徒たちの様子を見ていただけたなら、こうして夜間の照明に照らされたグランドを走っている生徒への応援をいただけると思います。走り終わったあとに爽やかな表情で、「校長先生も走ろうよ」なんて何人もの生徒たちが言ってくれました。

２年生の授業では、「星の王子さま」（サン＝テグジュベリ）を使っての国語の授業がありました。生徒たちは先生の解説を聞き、意見交換をしながら文章を読んでいました。私も、若い頃に読んだ記憶が甦りました。授業で読んでみて改めて感動し、当たり前のことですが、とてもよい作品だと思いました。定時制ならではの、こうした生徒たちと言葉や心を通わせての教育活動をしていると、この作品の中に出てくる、キツネが王子様に伝えた「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えない。かんじんなことは、目に見えない」という名言がほんとうに響きます。一人ひとりの生徒たちを心で感じて見るようにして教育活動をしていきたいと思いました。

さて成城高校についてお話しをします。昔は工業高校でしたので開校当初は技能連携制度というものがあり、事業所での実習・労働を単位として認めていました。今でいうところのインターンシップのようなものですね。連携企業には、小松製作所、近畿車両など十数社ありました。働きながら懸命に学ぶ勤労青少年の姿が偲ばれます。本校の記念誌を見れば、地方から金の卵として大阪にやってきた青年たちの学校生活や卒業式の晴ればれとした一コマに、彼らの青春の情景がまぶしいくらいに輝いています。今では技能連携制度もなく、地方からの生徒の少数です。当時は、男子生徒だけだったようですが、いまでは約３割が女子生徒です。学校の制度や雰囲気も変わってしまっていますが、変わらないのは夜に学ぶ先生と生徒の強い絆であり、頑張っている生徒たちの姿ではないかと思っています。今の生徒たちの様子も写真に残せば、きっとキラキラと輝いたものになるのだろうと思います。

今月も最後までお読みいただきありがとうございました。

成城高等学校　定時制　富田　公一